

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 12章 15～32節>

①イエス様が「自分のことを言いふらすな」(16)と言われた理由

自分を殺そうとしていることを知ったことも理由の一つでしょう(14)。しかしイエス様は恐くなってこう言われたのでもありません。今殺されるのではなく、この後の生と死が大事だからです。それは、マタイが載せてくれた旧約聖書のイザヤ書の預言(18-21、イザヤ書 42章 1-3節)を読めば分かります。一節ずつ、味わって行きましょう。

②神様が選ばれ、霊を授けられた方、イエス・キリスト!

「見よ、わたしの選んだ僕。わたしの心に適った愛する者。この僕にわたしの霊を授ける。彼は異邦人に正義を知らせる」(18)。神様が僕を選び、ご自分の霊を授ける、しかも、そのようなことを起こすのは全ての人に(「異邦人に」)正義を知らせるためだ、と言われているのです。選ばれた僕が「わたしの心に適った愛する者」と言われていますが、これはイエス様がバプテスマのヨハネから洗礼を受けた時に天からあった言葉と同じです(3:17)。このイザヤ書を読むと、イエス様のことを思い巡らさずにはおれなくなるはずです!

③旧約聖書を読む中ときに、イエス様の姿の意味が分かって来る!

「彼は争わず、叫ばず、その声を聞く者は大通りにはいない」(19)。

不思議な気がします。イエス様の姿がこの言葉と重なって来るからです。そう思うのは間違いでも勝手な思い込みでもありません。旧約聖書を読む中で、イエス様がどういうお方であるのか、その深い意味が分かって来るからです。これが、神様が私たちにイエス様を通してご自分のことを知らせるために用意して下さった方法なのです。

④全ての人の救い — 死を打ち破った主イエスの復活にあり!

「正義を勝利に導くまで、彼は傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない。異邦人は彼の名に望みをかける」(20-21)。

「傷ついた葦」「くすぶる(暗くなって行く:イザヤ 42:3)灯心」は私たちのことです! イエス様は、そんな私たちが最後の「勝利」に導くまで見捨てることはしないとされているのです。ここで、聖書から考えなければならぬ「勝利」とは何なのでしょう? 私たちの死に値する罪が赦されることを示す主イエスの復活なのです!